

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

大阪府		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
高石市立高石小学校（外6校）	高石市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
高石市立高石小学校	https://takaishi-elementary-school-osaka.edumap.jp/page_20230620031045
高石市立羽衣小学校	https://takaishi-gakkou.sakura.ne.jp/hagoromo/
高石市立高陽小学校	https://takaishi-gakkou.sakura.ne.jp/kouyou/index.html
高石市立取石小学校	https://takaishi-gakkou.sakura.ne.jp/toriiishi/flame.html
高石市立東羽衣小学校	https://higashihagoromo.es.edumap.jp/
高石市立清高小学校	https://takaishi-gakkou.sakura.ne.jp/seikosyo/notification.html
高石市立加茂小学校	https://takaishi-gakkou.sakura.ne.jp/kamosho/notice.html

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL
	学校関係者評価結果の公表 URL
高石市立高石小学校	https://takaishi-elementary-school-osaka.edumap.jp/page_20230620031045
高石市立羽衣小学校	https://takaishi-gakkou.sakura.ne.jp/hagoromo/
高石市立高陽小学校	https://takaishi-gakkou.sakura.ne.jp/kouyou/index.html
高石市立取石小学校	https://takaishi-gakkou.sakura.ne.jp/toriiishi/flame.html
高石市立東羽衣小学校	https://higashihagoromo.es.edumap.jp/
高石市立清高小学校	https://takaishi-gakkou.sakura.ne.jp/seikosyo/notification.html
高石市立加茂小学校	https://takaishi-gakkou.sakura.ne.jp/kamosho/notice.html

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

<特記事項>

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

教育課程特例校を受けたことにより、1～6年生において、系統立てて外国語を指導できた。第1学年から「高石っ子 グローバル コミュニケーション科(以下「TGC」)」(外国語活動)を実施することで、児童が外国語に親しみながら、コミュニケーション能力の素地の育成につながった。

外国語アンケート(1～4年生)については、肯定的回答が高い数値で推移しており、「TGC」を実施した効果があったと考える。

また、本市の「英語教育推進事業」に掲げている目標の一つとして、中1での英語検定5級程度の英語力を有する生徒の割合を80%としている。これについてもH26 46%⇒R4 74%と、目標の数値に近づくことができた。また、リスニングの正答率に至っては83%(R4)と、コミュニケーション力を含めた英語力が育成されていることも、効果として挙げられる。

「TGC」の毎時間、振り返りシート等を活用し、その日の授業で分かったことや感じたこと等を記入し、ポートフォリオ的にためていくことで、自己評価とともに、学習評価や授業改善にも役立てることができた。

また、第1学年から外国語の授業を実施することで、全教員が外国語の授業を担当し、授業力の向上を目標とした研修や取組みが各校で実施されるなど、外国語の授業への意識の高まりが見られたことも大きな成果といえる。

中学校との接続についても、中学校英語科の教員が4～6年生の外国語の授業に関わることにより、小中9年間を見通した系統立てた指導を行うことができた。併せて、全小中学校において、英語・外国語活動の公開授業を実施したことにより各校の取組みを市内全域に発信することができたことも、成果である。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

学習指導要領の外国語活動の目標には、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと・話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成すること」とある。

教育課程特例校を受けたことにより、第1学年から「TGC」（外国語活動）を実施することで、1～6年生において、系統立てて外国語を指導でき、児童が外国語に親しみながら、コミュニケーション能力の指示が育成されることにつながっている。

外国語アンケート（1～4年生）の肯定的回答が

「英語を勉強することは楽しみである」

(H30 87% ⇒ R1 87% ⇒ R2 88% ⇒ R3 85% ⇒ R4 85%)

「外国の人と英語を使って話せるようになりたい」

(H30 81% ⇒ R1 82% ⇒ R2 78% ⇒ R3 79% ⇒ R4 81%)

と、多少の増減はあるが、高い数値で推移している。児童が英語の授業を楽しみにし、外国の方と、コミュニケーションを図りたいと感じており、「TGC」を実施した効果があったと考える。

4. 課題の改善のための取組の方向性

高学年になるにつれ、「英語を勉強することは楽しみ」という児童が減少傾向にある。

1年	2年	3年	4年	5年	6年
86%	85%	87%	84%	75%	59%

授業内容等を工夫し、授業改善を行うとともに、コミュニケーションツールとして、英語が使えるようになる児童の育成をめざす。

また、「英語の勉強は役に立つと思う」に関しては、

(H30 88% ⇒ R1 91% ⇒ R2 91% ⇒ R3 91% ⇒ R4 90%) と、高い数値を維持しているが、授業改善等を実施し、国際社会に生きる子どもたちに外国語の必要性をさらに伝えていきたい。

上記のように、児童が楽しみながら授業を行ってきたが、小学校5年生から教科化された外国語において、学力の定着にのみ授業の重点が置かれないう、引き続きコミュニケーション能力の素地を養う。「使える英語」が身につくよう4技能5領域を発達段階に応じた、バランスよい指導を行っていく。さらに、ALTや中学校の英語科教員との連携を密にし、英語に触れる機会を増やしていく。国際社会で活躍できるよう、外国語でのコミュニケーションが図れる児童の育成はもとより、外国の方との交流を通して、異文化に触れることで、外国に興味をもち、自ら外国について調べるなど、児童の主体的な学習意欲にもつなげることをめざし、今後も引き続き、小学校1年生から「TGC」（外国語活動）の授業を実施していく。